

## 音楽会常務

角田 望

音楽会の常務は、従来の裏方という働きよりも音楽会全体の運営という脈絡がつよくなった。全体の目標は決めなかったが、学部リーダーの指導のもとでそれぞれの常務がよく働き音楽会を作りあげてくれた。

### 1. 常務教師会議

常務は4月から方針を定めるために動いていた。音楽教師と指揮者に常務リーダー、学園長、理事長が、プログラム全体の流れや全体組織の確認をしたのは4月16日のことであり、各部の常務教師は5月28日に最初の会議を持った。今回の常務教師会議が例年と異なったのは、弦楽の浅野先生を初めとして音楽教師が積極的に常務に参加されたことである。したがって、これまでの裏方業務としての常務ではなく、「音楽会という行事を支える常務」という意味合いが強まった。音楽の先生が「音楽だけではなく、音楽会に積極的に関わる」という姿勢を示され、常務生徒も裏方ではなく音楽会を作りあげなくてはならないという雰囲気の変化があったことは特筆すべきことである。

6月には2学期以降の予定が立てられた。チケット、ポスターの作成については常務からは独立して美術教師と学園長室で動いてくださった。2学期、9月26日に常務組織の課題と下見の準備を行ったが(第5回)、その後は教師と生徒で合同の会議となった。

### 2. 常務リーダー会議、常務全体会議

生徒の常務リーダーが最初に集まったのは6月29日であった。男子部、女子部、学部のリーダーは、生徒の目標を議論し、女子部からは草案も出されたが、結論は持ち越された。2学期に入り、9月10日、19日に議論を詰めたが、男子部からは「目標は縛りになってしまいマイナスである」という意見が強く、女子部からは「響き合うという目標もあるが、年間目標は『心から』なので」と同調意見があり生徒としての目標を立てないことが合同礼拝で報告された。

生徒の常務組織が動き始めたのは体操会後の10月15日の常務全体会議からであった。しかし、

教師のみで行った芸術劇場の下見(10月10日)の段階で、必要な生徒は既に動いていた。全体会議を24日にも取り、さらに11月5日には2回目の芸術劇場下見を行って常務全体として当日の動きなどを確認した。第3回の常務全体会議を11月14日に取り、25日の合同礼拝で全体に伝えて本番を迎えたので、常務として順調に本番に向けての準備を進めることができた。

### 3. 当日の取り組み、反省

常務の仕事で重要なのは「当日のスケジュール表」であり、学部の咲花先生が軸となって下さった。今回からはリビングアカデミーの方々も出演されたので調整はさらに複雑になった。そこで情報の迅速化を図るために学園のPCの共有フォルダーに「音楽会常務」を作成し、最新のスケジュール、会場図を入れた。また、手書きながら会場の立体図を作成したことも、生徒の動きの理解には一助となった。女子部では「音楽会のしおり」が作成されて情報の徹底が図られた。当日は学部リーダーが、「ステージ進行」とよく連携して全体をよく指揮し、音楽会はスムーズに運営された。

今年に新たに「舞台監督」が導入され、生徒の椅子並べなどを監督して下さった。舞台の責任者がいることはひとつの安心になったが、実際の椅子並べの細かい指導について教師の負担はそれほど変わらなかった。

11月28日第4回の常務全体会議で反省が行われた。学部の服装が不統一であったこと、プログラム内容の担当者が必要であったこと、芸術劇場の7階と5階の接続が問題であったことなど、様々な点が指摘されたので、4年後に引き継ぎたい。全体としては運営も順調であり、生徒も充実感をもって音楽会を終えることができたことが常務としては何より喜ばしいことであった。

※別添の組織表はHPには掲載していません